



# JAL不当解雇撤回ニュース

No301号 2013.07.15  
発行: JAL 解雇撤回国民共闘事務局  
連絡先: 航空労組連絡会事務局  
〒144-0043 大田区羽田 5-11-4  
フェニックスビル内  
TEL: 03-3742-3251 FAX: 03-5737-7819  
<http://www.jalkaikotekkai.com>

## これでも稲盛さんは経営の神様?!

日航を再建した凄腕経営者として稲盛元日航会長が再びマスコミ等に登場しています。航空の専門誌なども扱っている某書店でも、日航再建に取り組んだ稲盛会長を持ち上げた数種類の書籍が平積されていました。不当解雇を断行した稲盛元会長が「経営の神様」といえるのでしょうか? 決してそうではありません。日航の不当性を鮮明にするために、今一度、地裁での稲盛証言等を振り返って見てみましょう。

### 解雇は管財人が決めた 逃げた稲盛元会長

2011年2月の会見での発言に続き、地裁でも「解雇の必要性はなかった」と証言。であるなら、不要な整理解雇を回避するために管財人や銀行等を説得するのが会長（最高経営責任者）としての責務です。ところが稲盛氏はそれを放棄。法廷では解雇は経営上必要なかったと認める一方で「(整理解雇を決定する) 権限はなかった」「管財人が決めた」と証言。なんと無責任な態度でしょう。

#### 会社の代理人の質問に

#### 「解雇を決めたのは管財人だ」

Q 整理解雇を決定する権限はあったか?

稲盛 ありません。管財人が決めた。

Q 整理解雇を決定する会議の場にいたか?

稲盛 いました。

### 日本航空に利益第一主義という 猛毒を注入した稲盛さん

稲盛会長は日航に何をもち込んだのでしょうか。「利益なくして安全なし」と報じられたように、徹底した利益優先です。稲盛流の経営＝露骨な利益第一主義という猛毒を日航に注入したのが稲盛さんの業績? です。

#### 「利益なくして安全なし」と日経ビジネス誌が報道

御巣鷹山の事故以降、安全のために全ての経営資源を集中させると言う考え方。乗客の安全こそ我々の使命で、利益を出すことは邪道と言う雰囲気があった。これでは本末転倒です。そもそもつぶれかかっているお金もなければ、安全は守れんでしょう。利益を出して余裕がなければ安全を担保できる訳がない。そう幹部に問うと、みんな目をパチクリさせている。「そう言われてみればそうだ」と。

このような未熟な理想論で経営をしてきたため、基本的な哲学、文化が欠落していた。

(以上、2011年5月16日付日経ビジネス誌掲載より抜粋)

### 航空法の安全性向上努力義務を聞かされて 「今聞かれてもわかりません」

#### ～東京地裁での証人尋問より～

Q 「安全への投資や各種取り組みは、財務状況に左右されてはならない」という提言をご存知ですか?

稲盛 わかりません。

Q (資料を示し) これは09年12月に日航の安全アドバ

#### ～東京地裁での証人尋問より～

#### 原告代理人の質問に「解雇は必要なかった」

Q 8月の会見で4～6月期の営業利益171億円、11年度の営業利益目標757億円を上回ることは十分可能と述べ、「日経ビジネス」では、10年度の利益率は14%で、2割程度の変動(売上の下振れ)に耐えられると述べていますね?

稲盛 はい。

Q 4月の社内報で「想像を絶する厳しい経営環境でも大幅な黒字を残している」と述べていますね?

稲盛 はい。

Q 2月8日の発言は、こうした業績との関係で述べたのですか?

稲盛 当時、利益が出ていたのでそう言いました。

Q 会社の業績を踏まえて、解雇回避は経営上不可能ではないと言ったのですか?

稲盛 そうです。

Q 10年度の純資産は2,200億円、自己資本比率は16.5%。計画初年度だけで12年度目標を超過しています。2月8日の発言は客観的な状況ということですか?

稲盛 そうです。165人の人件費とその時の収益力から、誰が見ても雇用を続けることは不可能でないと思っただいしょう。

イザリーグループの提言です。「財務状態が悪化した時こそ、安全への取組を強化するくらいの意識を持って、安全の層を厚くすることに精力を注がなければならないのである」と述べているが、こうした提言をご存知なかったのですか？

**稲盛** よく知りません。

**Q** 航空法の103条（本邦航空運送事業者は輸送の安全の確保が最も重要であることを自覚し、絶えず輸送の安全性の向上に努めなければならない）をご存知ですか？

**稲盛** 今聞かれてもわかりません。

## 「安全は儲けを溜めてから言え！」

### 「いやなら辞めろ」=管財人代理

（安全第一の再建をと言う社員からの声に対応して）「安全を理由に利益が追求できないというようなことを言うなら、会社を辞めてくれ」「これだけの迷惑をかけていながらそんなことを言うなら、この会社をなくしてもよいと思う」「京セラの内部留保をめざせ。ANAなんか問題ではない」（社員に視聴させている教育用ビデオより）

あまりにも露骨な儲け主義です。この発言は世間から非難されるとともに、国会でも取り上げられました。労組の指摘に対し「問題はない」と開き直った日航経営も、世論からの批判を前に、このビデオを職場から回収せざるを得ませんでした。

こうした講演ビデオを、社員が学ぶべき講演として配布することの異常さ。これを問題なしとする労組への答弁、ここに利益第一主義に毒された日航の深刻さが見えます。

## 「フィロソフィー」と「部門別採算制」

### 稲盛さんの置き土産であり宝だと植木社長

稲盛氏の取締役退任に際して植木社長は、稲盛さんの置き土産・JALの宝として、「JAL フィロソフィー」と「部門別採算制」の二つを上げ、“これを実践していく”、そして、“一度破たんした企業であることを自覚し、一層の収益体質を築き社会の信頼を勝ち取る”と、利益第一主義の経営姿勢をあからさまに語っています。

航空会社として信頼を得るための前提条件は安全の確保です。2003～2005年、相次いで発生した異常運航で運輸大臣から業務改善命令や厳重注意を受け、旅客離れを招いた日本航空。これが大きく影響して経営悪化を招き、あの経営破綻の要因の一つとなりました。

安全運航の仕上げ、日常運航の最終責任者である機長を務めてきた植木社長。なぜ安全第一の経営に正すと胸を張って言わないのですか？ ここにも稲盛さんの罪深さが表れています。

## 稲盛さんを大きく取り上げた 6月18日付け朝日新聞記事



## 大所・高所から経営判断？

安全第一を貫き、そして再建を果たす。このために大所・高所から日航を見つめ誤りなき判断を下す。そして下した判断には責任を持つ。これが最高経営者としての役割です。

稲盛さんの地裁での証言には、立派な経営者、経営の神様といえるような姿はありませんでした。

- 解雇は必要ないと思いながら、それを貫かず管財人の判断に追従
- 解雇しておきながら、自分に決定権はない、「解雇は管財人が決めた」と
- 航空に関する尋問に対してははじめから「航空は素人で分からない」と逃げ
- 安全性向上義務を定めた航空法については「わかりません」
- 日航が安全のために設けたアドバイザリーグループの提言についても「よく知りません」

責任逃れと自己弁護、航空については、安全の大事さもよくわからない！これが法廷に立った稲盛さんのありのままの姿ではなかったでしょうか？

そして稲盛さんが日航に注入した露骨な利益第一主義。これが今職場をむしばんでいます。

## 日航に安全・安心を取り戻す！

### 不当解雇撤回はその第一歩です。